

令和5年度 掛川社会福祉事業会 事業報告書

令和5年度早々に新型コロナウイルスの感染類型が変更されたことにより、社会経済活動は徐々にコロナ禍以前の状態を回復しつつあります。そのような環境変化の中ではありましたが、当社会福祉法人が経営する高齢者福祉事業につきましては、感染発症、拡大の懸念は払しょくできず、感染下とほぼ同様のサービス提供を継続して参りました。それでも感染拡大を防ぐことはできず、職員の罹患も重なり利用者の皆様には不安と懸念を抱かせる結果となってしまいました。

さらには、企業活動における賃上げの動きにより商品やサービスへの価格転嫁の煽りを受け、事業収支面でも厳しい1年となりました。

このような不安定な状況の中ではありましたが、特別養護老人ホームや養護老人ホームでは、一日も早く利用されている皆様の閉塞感の解消、社会性を取り戻すため、地域の感染状況を注視し面会や外出の機会の確保に努め、またボランティア、実習生の受け入れ再開にも検討を重ねて参りました。地域包括支援センター等地域福祉事業もそれぞれの地域の事情に合わせ高齢者福祉サービスの周知、西部ふくしあでの必要な諸活動の推進、関係機関との協働に努めて参りました。

法人事務事業につきましては、諸規程に関して、昨年度に引き続き運用実態を精査した上で必要な改正を行うとともに、カスタマーハラスメントに対する対応指針新設等労働環境の整備も進めて参りました。

介護保険事業では、利用者の個別サービス計画書不交付事案が発生したため、県、市及び評議員会への報告と是正措置対応に努めました。介護保険事業の根幹に係る不適切な事態でありましたので、全事業所を挙げて再発防止策の構築に取り掛かりました。

職員関係では、後述の委員会を中心に、人材の確保、育成定着を目指しましたが、相応の事情による退職は防げず、派遣職員による欠員補充を余儀なくされました。

ききょう荘運営に関しては、掛川市内の養護老人ホームの今後の方向性をめぐり、掛川市役所所管課からの意向を受け協議の場に同席をすることとなりました。施設の老朽化、措置対象者の著しい減少を背景に、今後に向け指定管理受託法人としての見解を纏めていくことが求められ、6年度も協議を継続していくこととなりました。

法人を挙げて取り組むべき課題に対しましては、人材確保、育成・定着、地域貢献及び事業内部監査の各委員会にて活動を進めて参りました。

なお、法人事務事業実施状況は下記の通りです。

(1) 評議員会の開催

◇令和5年6月27日（第1回定時評議員会）

議案第1号 令和4年度掛川社会福祉事業会計算書類及び財産目録の承認について

議案第 2 号	理事の選任について
議案第 3 号	監事の選任について
報告第 1 号	令和 4 年度掛川社会福祉事業会事業報告について
報告第 2 号	監事監査報告について
報告第 3 号	社会福祉充実残額について

◇令和 5 年 12 月 22 日（第 2 回評議員会）

議案第 1 号	令和 5 年度掛川社会福祉事業会補正予算について
---------	--------------------------

◇令和 6 年 3 月 27 日（第 3 回評議員会）

議案第 1 号	令和 5 年度掛川社会福祉事業会補正予算について
議案第 2 号	令和 6 年度事業計画について
議案第 3 号	令和 6 年度掛川社会福祉事業会予算について

(2) 理事会の開催

◇令和 5 年 6 月 5 日（第 1 回理事会）

議案第 1 号	令和 4 年度事業報告（案）について
議案第 2 号	令和 4 年度掛川社会福祉事業会決算及び財産目録（案）について
議案第 3 号	評議員候補者の選任（案）について
議案第 4 号	評議員選任・解任委員会の招集及び提出議案について
議案第 5 号	理事・監事候補者の選任（案）について
議案第 6 号	定時評議員会の招集日程及び提出議案について
議案第 7 号	役員等賠償責任保険契約内容について
報告第 1 号	理事長業務執行報告（3 月～5 月）
報告第 2 号	養護老人ホーム掛川市ききょう荘指導監査の実施結果について

◇令和 5 年 6 月 27 日（第 2 回理事会）

議案第 1 号	理事長の選任について
報告第 1 号	評議員選任解任委員会議事録の提出について

◇令和 5 年 9 月 22 日（第 3 回理事会）

議案第 1 号	規程の一部改正について
	1) 就業規則の一部改正について
	2) 非常勤就業規則の一部改正について
	3) 非常勤給与規程の一部改正について

協議第 1 号 ききょう荘を含む掛川市内養護老人ホームの在り方について
報告第 1 号 理事長業務執行報告（6 月～8 月）
報告第 2 号 職員の懲戒について

◇令和 5 年 12 月 13 日（第 4 回理事会）

議案第 1 号 特別養護老人ホームかけがわ苑非常放送設備更新工事について
議案第 2 号 令和 5 年度掛川社会福祉事業会第一次補正予算案について
議案第 3 号 第 2 回評議員会の招集日程及び提出議案について
議題第 1 号 通所介護事業所におけるサービス計画書未交付事案について
報告第 1 号 中期監査報告
報告第 2 号 理事長業務執行報告（9 月～11 月）

◇令和 6 年 2 月 14 日（第 5 回理事会）

議案第 1 号 役員等賠償責任保険契約の内容について
議題第 1 号 令和 6 年度事業計画及び予算案の策定、方向性と概要について
報告第 1 号 通所介護事業所におけるサービス計画書未交付事案についての県の結果報告

◇令和 6 年 3 月 18 日（第 6 回理事会）

議案第 1 号 令和 6 年度積立金について
1) かけがわ苑拠点区分積立金について
2) ききょう荘拠点区分積立金の取崩しについて
議案第 2 号 令和 5 年度かけがわ苑拠点区分拠点区分間繰り入れについて
議案第 3 号 令和 5 年度ききょう荘前期末支払資金残高の使用について
議案第 4 号 令和 5 年度掛川社会福祉事業会補正予算案について
1) 本部拠点区分第一次補正予算案について
2) かけがわ苑拠点区分第二次補正予算案について
3) ききょう荘拠点区分第二次補正予算案について
議案第 5 号 規程の一部改正について
1) 定款細則 2) 経理規程
3) 就業規則 4) 給与規程
5) 非常勤職員就業規則 6) 非常勤職員給与規程
7) 社会福祉法人掛川社会福祉事業会管理職員の範囲を定める規則
8) 慶弔見舞金規定
9) 職員の懲戒処分の手続き等に関する規程

- 議案第 6 号 令和 5 年度各所修繕工事について
1) かけがわ苑デイサービス棟（平屋部）屋根防水及び軒天井修繕工事
について
- 議案第 7 号 令和 6 年度かけがわ苑拠点区分拠点区分間の繰り入れについて
- 議案第 8 号 令和 6 年度ききょう荘拠点区分前期支払資金残高の本部拠点区分への
繰入について
- 議案第 9 号 令和 6 年度事業計画案について
- 議案第 10 号 令和 6 年度掛川社会福祉事業会当初予算案について
- 議案第 11 号 評議員会の招集日程及び提出議案の承認について
- 議案第 12 号 社会福祉法人に対する指導監査結果報告について
- 報告第 1 号 理事長業務執行報告（12 月～2 月）

(3) 監事による監査の実施

- 決算監査（経理監査・業務監査） 令和 5 年 5 月 29 日 実施
- 期中監査（経理監査・業務監査） 令和 5 年 10 月 23 日 実施

(4) 掛川市による社会福祉法人監査

令和 5 年 11 月 24 日 受審

(5) 登記関係

- 資産の変更登記 令和 5 年 6 月 27 日 （資産総額 774,570,848 円）
- 理事長選任登記 令和 5 年 6 月 27 日

(6) 建設資金等借入金償還関係

施設建設等資金としての島田掛川信用金庫からの借入及び償還状況は資料 1（参照）の通り。

(7) 寄付金等の受入状況

現金 441,000 円

(8) 職員の動向（年間）

正規職員新規採用者数	正規職員退職者数	非常勤職員新規採用者数	非常勤職員退職者数
3 人	9 人	13 人	8 人

(9) 法人事業所利用者事故（掛川市への報告ケース）発生数 21 件

(10) サービスに係る苦情受付件数 19 件

(11) 法人本部所管委員会活動

①広報・人材確保対策検討委員会

会議開催 年 9 回

主な活動実績

- ・人材確保対策及び求人広告媒体の研究、検討
- ・求人セミナー、ガイダンス参加
- ・広報誌「笑顔のわ」の編集、発行

②地域貢献事業検討委員会

会議開催 年 6 回

主な活動実績

- ・掛川市社会福祉協議会との連携による小規模地域ネットワーク事業への参画
- ・地域健康講話への講師派遣
- ・地域貢献活動に係る法人職員への意識啓発（ホームページブログ掲載）
- ・地域認知症カフェ利用者の送迎支援

③人材育成検討委員会

会議開催 年 6 回

主な活動実績

- ・WEB研修システムの普及啓発
- ・職員育成に向けての研修出張復命書の利活用促進
- ・プリセプター制度の運用定着検証
- ・新入職員採用時研修内容の見直し
- ・指導職に対するジョブカード活用によるコンサルティング事業

④事業監査委員会

会議開催 年 7 回

主な活動実績

- ・事業所管理者への実地監査（6 事業対象）
- ・内部監査チェックリストの見直し
- ・外部監査（掛川市による社会福祉法人監査）への委員の立ち合い

令和5年度 特別養護老人ホームかけがわ苑 事業報告書案

総括

令和5年5月8日を以て感染症法上の位置づけが「5類」へ引き下げられた新型コロナウイルス感染症ではありましたが、8月下旬に多床室フロアにて利用者25名に及ぶクラスターが発生致しました。第9波のウィルスは一般的に重症化しにくいと言われていた中ではありましたが、高齢者には重篤な作用と影響をもたらすということを痛感致しました。2名の方が重症化で救急搬送され、23名の方が施設内療養を致しましたが、療養中に筋力の低下や食が細くなるなど身体機能が低下してしまったことで終末期に拍車がかかり、転院含め退所者が多数発生致しました。結果、この空床が目標年間平均稼働率を1.4%下回ることに大きく作用してしまいました。

一方、5類下における利用者と家族の絆を保つための方策と致しましては、クラスター発生で一時的に面会や外出の制限は致しましたが、段階的に緩和をすすめて楽しみのある日常生活が送れるよう、面会や外出の機会を確保して参りました。

また、3大行事につきましては、3年ぶりに多目的ホールに集合しての納涼祭を盛大に開催致しました。敬老会及びクリスマス会はクラスター発生後の実施であったため、計画を切り替え、対策を講じながらフロア毎の開催と致しましたが、ボランティアの受入れや「ふれあい広場」の参加等、地域との関わりを徐々に増やして参りました。

利用者サービスにつきましては、令和4年度に受審した福祉サービス第三者評価事業の評価結果を活用するため、サービス向上委員会が中心となって各部や専門職へサービス改善を促しました。厚労省の科学的介護情報システム「LIFE」においては、フィードバックデータを褥瘡マネジメントやケアプラン作成に反映するとともに、サービス担当者会議でも活用致しました。また、管理栄養士を増員したことにより栄養ケアマネジメントを強化し、栄養ケアの充実に努めました。

利用者の安全管理につきましては、事故防止・虐待防止の観点含め、利用者ご家族からのご指摘をいただき、利用者の皮下出血等の出現を軽視せずに身体変化を見逃さないこと、経過をみること、記録に残すことの徹底に努めております。また、障がい者施設での不法侵入による痛ましい事件を教訓に、施設進入口のセキュリティ強化や、さすまた等の防犯グッズを増やすなど、施設内に不審者が侵入した際の対応含めた防犯対策マニュアルを策定し職員に周知致しました。

1. 利用者の状況について

アー1) 利用者実績 (在籍率：年間平均 97.3%)

定員 80 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
延べ日数	2316	2403	2368	2460	2466	2269	2381	2326	2385	2419	2244	2419

在籍率	96.5	96.9	98.7	99.2	99.5	95.6	96.0	97.0	96.2	97.6	96.8	97.6
-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

※小数点第2位以下切り上げ計上

ア-2) 入退所及び入退院状況 (前年度)

新規入所者数	退所者数	入院実人数	延べ入院日数	延べ外泊日数	施設内看取り実績
32人 (21人)	34人 (19人)	20人 (12人)	410日 (216日)	0日 (0日)	18件 (11件)

※看取りは同意書を取り交した後に死亡した件数

ア-3) 新規入所申込者数 (前年度)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人数	4	5	6	8	7	7	7	6	5	12	9	7	83 (83)

ア-4) 要介護度の分布 (月初基準)

介護度	1	2	3	4	5	平均介護度
4月 (期首)	0	1	25	17	36	4.11
3月 (期末)	0	0	23	23	31	4.10
比較増減	0	△1	△2	5	△4	△0.01

ア-5) 保険者に対する事故報告該当件数

年間 10件 (前年度6件)

内訳は、骨折事故 4件、受傷により縫合処置した事故 1件、

溺水 (当事者事故) 1件、打撲 2件、頭部血腫 2件となっております。

※溺水事故につきましては職員の過失による重大な介護事故として受け止め、再発防止に向け防止策を徹底しております

2. 家族等関係者及び地域との連携について

ア-1) 家族との連携 (前年度)

面会者延べ人数	1日平均面会者数
1558人 (822人)	4.3人 (2.3人)

利用者外出延べ人数
47人 (48件)

新型コロナウイルスの5類移行及び感染状況を鑑みながら、アクリル板や窓越しでの遮蔽した対面面会の解除ならびに面会場所、面会人数等を段階的に見直したことで面会数は倍

増しました。また、食事を摂ることは控えていただき、数時間設定の条件のもとではありましたが、外出の機会を確保致しました。

ア-2) 地域等との連携 (前年度)

ボランティア 受入実人数	ボランティア 受入延べ人数	ボランティア 1日平均受入人数	新規ボランティア 実人数(再掲)	実習生受入 延べ人数
4人 (3人)	4人・1団体 (3人・1団体)	0.01人 (0.008人)	0人0団体 (0人0団体)	137人 (130人)

ア-3) 優先入所検討委員会 3回開催 (7月25日・11月28日・3月22日)

令和6年3月31日現在、入所申込者(待機者)は要介護3未満の申込者を含め105名となっております。

委員会開催後の優先順位確定の連絡や、順位上位者への随時連絡、診療情報提供書の作成依頼等、待機者リストの適正管理に努めてまいりましたが、入所申込時や優先入所検討委員会資料作成時における確認の際には「今すぐに入所したい」と意向の確認がとれていても、実際には入所決定の案内時の段階で入所保留または申込取り下げをする方が15名おりました。そのため、退所後1週間での入所目標につきましては、短期間に退所が複数人続いてしまったケースもあり入所までに要した日数は平均12日程度でした。又、コロナクラスターの影響や、入院期間の延長等により年間平均在籍率も昨年度を1.4%下回る結果となってしまいました。

3. 相談援助部門

科学的介護推進体制加算取得のため、6ヶ月に1度の必須項目のデータ入力、提出を行い受審したフィードバックデータをサービス担当者会議で活用しました。

ボランティア活動においては引き続き車椅子清掃や屋外整備、ウェス作りなど間接的な活動をしていただきました。また、慰問の受け入れを再開し利用者との交流を図ることができました。実習生につきましては、学校側の感染対策の協力を得ながら高等学校・専門学校の単位実習や特別支援学校高等部の職業訓練を受け入れました。

入所相談につきましては引き続き簡便な方法がとれるように、郵送やメールでの受け付けの他にICT化を活用して入所申込資料がホームページからダウンロードできるように致しました。

防災・防犯関係につきましては、近年顕著に発生している甚大な豪雨災害を教訓に、11月の総合防災訓練で近隣施設合同による垂直避難訓練を実施しました。また、防犯対策につきましては防犯対策マニュアルを策定し職員に周知するとともに、防犯用品としてさすまたを購入し、職員の防犯意識を高められるよう努めました。

4. 栄養管理部門

令和5年度より栄養ケアマネジメント強化加算を取得、「LIFE」を通じて3カ月に1度栄養マネジメント加算に関する情報のデータ提出を行いました。

個別の低栄養状態のリスクに応じたモニタリング期間での状態観察と、安全・安心な食事形態を多職種間で検討致しました。水分補給ゼリーの定着と代替品の提供により水分摂取率を高めるように致しました。

またサービスの質の向上と楽しみのある食事提供を目指し、「かけがえの味」を追求した利用者に喜ばれる献立作りを心掛けました。ご利用者の要望に応じた嗜好については「リクエストメニュー」として、手作りおやつも時期や行事に合わせ季節感を感じられるものを提供し好評をいただきました。

5. 介護・看護部門

その人らしい日常の暮らし、利用者の声や想いを一層大切にするため、「私の暮らしシート」「利用者の声・想い」の記録に残し、個別ケアへ繋げる取り組みが定着しています。入居者同士や施設長との茶話会、カラオケ大会等のリクエスト企画が実現でき、利用者に喜ばれました。

「ノーリフトケア」の理解が全ての職員に周知され、移乗はスライディングシートの活用により腰痛に悩む介護職員は発生致しませんでした。

褥瘡・拘縮防止ケアへの取り組みにつきましては、共通するポジショニングの重要性に着眼し、計画書を作成し状態に即したケアの実践を行って参りました。また、褥瘡・拘縮予防研修で適切な対処方法を習得し褥瘡発生予防に努め、褥瘡発生時には栄養状態を含む全身状態の把握と対応について多職種連携で検討し、褥瘡の早期改善を図りました。

LIFE導入による褥瘡ケアマネジメント加算取得のため、3ヶ月1度の入力と提出を行い褥瘡ケア計画書の記入の継続、褥瘡発生者においては随時DESIGN-Rの情報入力、経過を追い評価を実施し早期褥瘡改善に努めました。

多床室フロアで発生した新型コロナウイルス感染症のクラスターにおいては、重症化による救急搬送はあったものの、感染状況に応じ適正な感染対応とゾーニングを行い施設全体の蔓延に繋がることなく終息することができました。

6. 行事余暇活動等の実施について

ア) 余暇活動参加実績

	実施回数	備考
季節活動等	4回	七夕、正月、節分、運動会
慰問	2回	秋葉通り地区お囃子披露、ラパン様舞踊披露
リクエスト企画	7回	苑長と茶話会、カラオケ会等

※毎月の誕生会の実施（各フロア毎）

イ) 主要行事開催実績

	実施回数	備 考
納涼縁日	1 回	各フロア開催
敬老会	1 回	各フロア開催
クリスマス会	1 回	各フロア開催

7. 防災対策実施状況

- ・年間訓練実施回数（フロア）10 回
- ・総合防災訓練 2 回

8. サービスの質の管理及び向上への取り組み状況

- ア) 内部研修開催実績 年 17 回
- イ) 外部研修参加実績 年 61 回（WEB 研修受講含む）
- ウ) 施設内委員会活動実績

委員会名	会議開催	主な活動内容
（安全管理部門）事故防止・身体拘束廃止・虐待防止委員会	12 回	事故検証（再発防止策の実施状況等）、内部研修の開催、拘束適用の可否判断と廃止への意識啓発
感染褥瘡防止委員会	12 回	新型コロナウイルス感染対策、感染・褥瘡予防の啓発、褥瘡予防ケア計画書の更新、除圧クッションの購入、各感染症マニュアルの作成、内部研修の開催、機能向上型エアマットの更新
サービス向上委員会	10 回	運営指針の確認、利用者評価（アンケート）の実施、第三者評価受審振り分け、評価
防災・防犯委員会	10 回	防災訓練の計画と実施、防犯マニュアルの作成、防災用品の取り扱いや職員への周知等

9. 地域交流としての取り組み状況

内容	実施回数	主な活動内容
ふれあい広場	1 回	事業所紹介

令和5年度 かけがわ苑 短期入所生活介護事業所 事業報告書

総括

令和5年度のかげがわ苑短期入所生活介護事業所におきましては、新型コロナウイルス感染症が5類に移行した後も引き続き標準予防策の徹底を継続し、感染対策を講じながらコロナ禍で見合わせていたショート喫茶等の活動を再開する等、安心かつ楽しみを持ってご利用していただけるようなサービス提供に努めて参りました。令和4年度に目標を大きく下回ってしまった稼働率も90%と改善し、目標を達成することができました。

しかし、各月においては大幅に稼働率が低下している月があり、特養多床室フロアにおける新型コロナウイルスのクラスター発生による利用控え等の影響や、定期的にご利用しているご利用者が相次いで特養・老健施設等への入所、逝去されたことが要因としてあげられます。

地域の社会資源である当事業所の円滑な活用に向けては、長期利用者のニーズへの対応や利用者の状態変化に柔軟に対応するために、緊急ショートの受け入れや空きベッドの活用を積極的に行い6件受け入れを致しました。また、居宅介護支援事業所へは空き情報や担当利用者の利用中の状況等を積極的に直接発信し、ケアマネジャーとの顔の見えるより良い関係作りに努めました。

1. 利用実績

アー1) 月間状況 ※平均利用者数は1日あたりの利用者数

定員7人	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	6.7	6.7	6.5	6.5	6.6	5.7	5.7	5.8	5.1	6.9	7.2	6.3
利用実人数	26	22	19	16	19	15	17	18	17	20	18	18
延べ人数	200	207	196	201	204	171	176	173	156	213	209	196
平均介護度	2.5	2.5	2.4	2.5	2.7	2.8	2.7	3.0	2.8	2.8	3.0	3.1
稼働率(%)	95.3	95.4	93.4	92.7	94.1	81.5	81.2	82.4	71.9	98.2	103	90.4

※小数点第2位切り上げ計上

アー2) 年間状況(前年度)

利用者延べ人数	1日当たり 平均利用者数	新規契約者数	平均介護度	年間稼働率
2302人 (2106人)	6.3人 (6.1人)	22人 (21人)	2.7 (2.5)	90.0% (82.6%)

※小数点第2位切り上げ計上

アー 3) 年間介護度別延べ人数 (前年度)

要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
396 人 (422 人)	196 人 (426 人)	1368 人 (1062 人)	310 人 (173 人)	32 人 (23 人)
△26	△230	306	137	9

アー 4) 年間性別割合 (前年度)

男性	女性
29.2% (17.1%)	70.8% (82.9%)

アー 5) 年間空床利用 (前年度)

特養空床数	空床利用数
822 床 (396 床)	61 床 (16 床)

※特養空床は退所・入院・外泊時に発生、外泊加算算定期間中を含む。

空床利用に関しては、新型コロナウイルス感染拡大を防ぎ特養入所者への蔓延リスクを低減させるため、令和 3 年 1 月より多床棟の空床利用は中止していましたが、5 類に移行したことと、緊急利用のニーズに対応するために令和 6 年 1 月より多床室の空床利用の受け入れを再開しました。

アー 6) 年間新規契約者・利用中止者

新規契約者	利用中止者
22 人 (23 人)	10 人 (12 人)

イー 1) 保険者に対する事故報告件数 (医療機関受診を必要とする程度の事故)

年間 6 件 (前年度 0 件) …いずれも発見事故

※内訳：骨折 2 件、縫合処置 3 件、その他 1 件

2. 家族・関係機関との連携状況

- ・サービス担当者会議参加回数 4 回(更新のサービス担当者会議)

5 月より新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行しましたが、ケアプラン更新における関係事業所が集合してのサービス担当者会議は減少傾向にあり、前年の 9 回と比較し今年度は 4 回でした。日程調整の難しさもありますが、介護保険の更新期間が 1 年から 3 年、

4年までと長期間の更新期間となったことも大きな理由と言えます。

開催に際しては、利用中のご本人の様子と支援状況がより詳細にご家族に伝達出来るよう会議資料は利用者ケアに主として携わる介護職員が作成し、介護職員等が出席出来ない場合は生活相談員が代理出席しました。

3. サービスの質の管理及び向上に向けての取組状況

・新型コロナウイルス感染症対策について

昨年度と同様に職員には正しい手洗い・消毒・マスクの着用、フェイスシールドの装着等の標準予防策を徹底し、感染対策に努めました。多床室フロアにてクラスターが発生してしまいましたが個室フロアまで蔓延することはありませんでした。

・療法レクリエーションの実施

5月以降、感染症の類型が引き下げられたものの、新型コロナ感染症前と同様とまではいきませんでしたが、個別に実施できるパズルや塗り絵をはじめとして、特養入所者とショート利用者が一緒楽しめる行事を企画し、実施することが出来ました。また、喫茶、機能訓練を兼ねたゲーム、オイルを使用したハンドマッサージを再開することが出来ました。

令和 5 年度 かけがわ苑 通所介護事業所 事業報告書

総括

令和 5 年度の通所介護事業所につきましては、個別サービス計画書の作成及び交付において法令遵守の観点から逸脱し、利用者・ご家族様、居宅介護支援事業所等に対して信頼を損ねる事態がありました。利用者・ご家族様や関係機関には説明と謝罪等の対応をとらせていただき、事態の原因を含め詳細検証を行った上で再発防止策を講じておりますが、介護保険法による適切なサービスの提供を行うためには、事業所の内部牽制強化に加え、職員に対し法令遵守の理解と周知を行っております。

サービス実績につきましては、居宅介護事業所に空き情報を伝え、現利用者のサービス追加や、新規獲得に努め、令和 4 年度より上回る結果となりました。

また、感染防止委員会、事故防止・身体拘束廃止・虐待防止委員会、防災委員会は令和 5 年度末を期限とした介護保険制度改正の経過措置期間中に指針作成、研修、訓練などを行い、利用者の安全管理に努めて参りました。

1. 利用者の状況について

1 日における目標平均利用者数の 21 名につきましては、22.4 名の実績を上げ、当初目標を達成することができました。また予防給付利用者を含めた全体の平均稼働率も令和 4 年度より 3.0%上回る結果となりました。

アー 1) 通所サービス提供実績

平日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (平均)
介護平均人員	22.8	22.9	22.3	21.7	22.7	22.4	22.8	21.4	22.2	21.3	19.4	20.1	22.4
利用実績(延回数)	456	526	491	455	523	470	501	470	466	425	408	423	467.8
平均介護度(予防含む)	1.8	1.8	1.9	1.9	1.9	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9
利用実績(予防人員)	6	5	5	5	4	4	4	4	3	3	3	1	3.5
利用実績(延回数)	37	40	38	33	33	28	25	29	20	20	22	7	27.6
利用率(予防含む)	82.3	82	80	77.3	80.6	79	79.6	75.6	77	74	68.3	68.3	77.0

*実施日数=月曜日から金曜日。ただし、1月 1 日～1月 3 日を除く

*利用稼働率=月定員合計に占める月利用延人数合計の割合

ア - 2) 年度内状況(前年度)

年度内新規利用者数	年度内契約解除者数	体験利用者数	キャンセル数
4 件 (18 件)	6 件 (11 件)	6 件 (23 件)	364 件 (661 件)

※体験利用のうち 4 名がサービス契約締結に至りました。

※キャンセルの主な内訳

自己都合 71件 体調不良 120件 受診・入院 106件
ショートステイ 42件 その他 25件

・新型コロナウイルス感染症5類移行(5月～)によりキャンセル数の減少に影響

2. 家族・関係機関と連携状況

ア) 利用者、家族へ必要時お知らせ文書や依頼文書、行事のお知らせなどを配布し
家族とのコミュニケーションを密に取ってきました。また連絡帳を通じての連絡を
行い、必要時には電話連絡をするなど共有を図って参りました。

イ) ボランティア受け入れ実績

年間受け入れ延べ人数 個人 11件 団体 1件

3. サービス提供状況

ア) 認知症加算の対象者(認知症日常自立度Ⅲ以上)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	8	9	7	9	9	9	9	9	8	8	8	7
割合	20.6	20.4	20.9	21.4	22.4	22.5	22.1	21.9	21.9	21.7	20.8	19.8

※加算条件：利用者の総数のうち認知症日常自立度Ⅲの方の割合が平均で20%以上

6月は加算要件である看護職員又は介護職員の配置人員を満たせず、認知症加算取得ができませんでした。また3月についても加算対象者の平均割合が20%以下であったため取得ができませんでした。

イ) 個別機能訓練

機能訓練加算は算定していませんが、機能訓練指導員(看護師)を中心とした
機能訓練(マッサージ・口腔体操等)を実施しています。

4. 防災対策実施状況

年間訓練実施回数 9回
利用者避難誘導訓練 5回
訓練講話 2回
職員防災研修 2回

利用中の地震・火事・風水害に関連した防災訓練を実施しています。特養の総合防災訓

練の応援訓練にも参加致しました。

5. サービス管理及び向上に向けての取組状況

ア) 内部研修開催実績

年 6 回 開催

事故防止・身体拘束廃止・虐待廃止・新型コロナウイルス感染予防対策・サービス向上・防災についての研修を 2 ヶ月に 1 度開催し、職員の資質向上に努めました。法令遵守研修を 2 回実施しました。

イ) 外部研修参加

年 1 回 参加

中東遠地区職種別研究会（デイサービス）に参加し、通所介護事業所のための介護保険制度改正と介護報酬改正についての講義を受け、今後予測される改正をグループで話をいたしました。

令和5年度 かけがわ苑 居宅介護支援事業所 事業報告書

総括

令和5年度の事業所運営においては、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、ケアマネジャーの業務も以前のような顔の見える関係性が図れる業務体制に戻りつつありましたが、継続して感染症の発生も多く聞かれたため、感染対策と自己管理を徹底してサービス担当者会議やリハビリ会議に臨みました。

ケアプラン作成の目標は月 170 件とし、地域包括支援センターからの紹介を中心に家族や他機関からの依頼にはすべて受けてきましたが、施設入所や他界などの契約解約数が上回ったことで年間を通じ目標件数に到達致しませんでした。

サービスの質の管理及び向上に向けての取組みにつきましては、遠方でのカンファレンス参加等、オンライン等を活用して業務のスリム化を図る一方、主任介護支援専門員を中心にケアプラン点検を実施するとともに、各ケアマネジャーが利用者へケアプランを作成し同意をいただくまでの業務把握を事業所管理者が徹底することで各ケアマネジャーの法令遵守に対する責任と自覚が高まりました。また、事例検討会や各研修へも積極的に参加し知識を取得する等、専門職としての資質向上に努めながら地域包括支援センターや各関係機関と連携して困難事例にも積極的に対応致しました。

1. 利用者の状況について

アー1) 居宅介護支援サービス提供実績

単位：件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
計画作成数	170	176	171	171	173	169	169	163	164	167	163	167	2023	168.6
ケアマネ1人 当りの作成数	36.2	37.4	36.4	36.4	36.8	33.8	36.0	34.7	34.9	35.5	34.7	33.4	/	33.9

※小数点第2位切り上げ

年度内新規利用者数（前年度）	年度内契約解約者数（前年度）
52人（59人）	47人（43人）

※解約者の内訳 ①施設入所 27人 ②死亡 21人

③要支援状態への移行 0人 ④転居、事業所変更 2人

⑤その他 1人（サービス希望なし）

新規利用者につきましては、包括支援センターからの紹介が最も多かったものの、ご家族や他機関からの直接依頼をいただけるように声をかけました。

アー 2) 利用者の状況

単位：人

介護度	1	2	3	4	5	3～5 の割合
4月（期首）	56	66	24	16	7	27.8%
3月（期末）	64	59	29	15	1	26.7%
比較増減	8	△ 7	5	△ 1	△ 6	

※当月利用述べ人員の1日当たりの平均とし、小数点第2位を切り上げる。

イー 1) 介護予防支援サービス提供実績

単位：件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
計画作成数	28	26	26	25	23	24	23	22	19	19	18	17	270	22,5
ケアマネ1人当り	5.9	5.5	5,5	5,3	4.8	5,1	4.8	4,6	4,0	4,0	3,8	3,6		4,7

(総合事業対象者含む) ※小数点第2位切り上げ

イー 2)

年度内新規利用者数（前年度）	年度内契約解除者数（前年度）
7人（9人）	10人（8人）

※解約者の内訳 死亡 1名 施設入所 2名 介護給付への移行 7名

2. 受託事業の実施状況

介護認定調査実績

単位：件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計（前年度）
調査実施件数	2	2	0	0	2	2	0	0	2	2	2	0	14 (10)

介護認定調査につきましては、認定期間延長により依頼件数が減っていますが、訪問調査員を1名増やし、依頼があった調査はすべて実施しました。

3. サービスの質の管理及び向上に向けての取組状況

ア) 内部研修開催実績

年 11 回開催

職員会議及び定例会議の中で、外部研修に参加した職員による内部研修（勉強会）を行い、職員への周知を図ることで資質向上に努めました。

防災（1回）、虐待（2回）、感染（2回）、その他（5回）

イ) 外部研修参加実績

年間 39 回参加

介護支援専門員更新研修（15 回含む）と他各団体からの研修にオンライン又は集合型で参加しています。

令和 6 年度必須とされる BCP 等の作成に役立つ研修に参加し、BCP や指針も作成ができ、包括が主催する研修に参加することで、居宅同士横の繋がりを深めることができました。

ウ) 合同事例検討会

年 2 回

以前から開催されている事例検討会は、今年度も介護支援専門員連絡協議会研修部が年間計画を作成し、オンラインまたは集合型にて 2 回開催され、各 2 名ずつ参加して他居宅事業所との連携を図りました。

エ) 市町が実施するケアプラン検討会への参加

年 1 回

医療・リハビリの専門職との多職種協働によるケアプラン検討会に参加して、専門的な助言や公的なサービスのみには偏らないインフォーマルな社会資源に目を向けたプラン作成を市内居宅の介護支援専門員に対して支援致しました。

オ) その他

利用者アンケート 年 1 回実施

令和5年度 掛川市西部地域包括支援センター事業報告書

総括

2025年を目途に高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築が推進されています。令和2年からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大により外出や介護サービスの利用等、人との接触を控える高齢者も見受けられ、3年以上にわたったコロナ禍は、高齢者の生活に大きく影響を与えました。

令和5年度は、地域の「つながり」の再構築を目指し、地域の保健・福祉・医療・介護の専門職やボランティア、民生委員等関係者との連携の下、掛川市社会福祉協議会と協働で西部圏域内に人が集まる場「認知症カフェ」を実現致しました。

また、相談援助業務においては、多様化、複雑化した相談等に対応するために、職員それぞれの専門性を活かし、連携、協働しながら問題解決を図る「チームアプローチ」を実践致しました。

1. 総合相談支援

年間相談件数は4,827件ありました。内訳としましては、介護保険サービスについての相談が1,727件、介護・日常生活に関することの相談が1,724件と昨年同様上位を占めていました。

総合相談件数は昨年度に比べ274件の増加となり、特に訪問相談件数は新型コロナウイルス感染前の活動件数に近づいている状況となりました。

<圏域内状況及び相談経路>

単位：件

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
高齢者数	6,584人	6,820人	6,951人	7,048人	7,213人	7,303人	7,383人
高齢化率	24.2%	25.1%	25.5%	26.0%	26.7%	27.3%	27.61%
来所	567	693	643	521	421	545	594
電話	3336	4225	4224	2916	3096	3051	3072
訪問	1667	2239	1622	1218	928	957	1161
合計	5570	7157	6489	4655	4445	4553	4827

<高齢者実態把握調査：新規把握者・追加再入力者・新規登録者>

単位：件

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
23	27	25	26	31	33	37	20	19	42	26	25	334

新規相談内容につきましては、配偶者からの相談が増え、子ども世代からの相談が微減していました。背景には核家族化、高齢者夫婦のみの世帯の増加が窺えます。

<新規相談対象者の地区・男女別人数>

	人口	高齢者人口	高齢化率	新規相談数 (男性)	新規相談数 (女性)	新規相談 合計数
和田岡	2,860	892	31.19%	21	28	49
原谷	3,771	1,306	34.63%	20	28	48
原田	1,419	561	39.53%	14	15	29
原泉	432	208	48.15%	3	9	12
桜木	11,481	2,902	25.28%	60	66	126
西郷	6,774	1,514	22.35%	30	40	70
計	26,737	7,383	27.61%	148	186	334

相談件数は、昨年同様、ふくしあ近隣の桜木地区ついで西郷地区の順でありました。

和田岡地区に関しては人口に対し顕著な相談件数の増加となりました。

2. 権利擁護業務

1) 成年後見制度の活用・促進

権利擁護業務に関する相談は、72件で、昨年に比べ60件と増加している現状で、成年後見制度申立て調整中のケースが1件でした。

2) 虐待事案への対応

8050問題、子供の引きこもり無収入、親の無年金など複合的な問題を抱えているケース4件に対し権利擁護相談連絡票を市へ提出し、関係機関と幾度も会議検討し対応をすることで虐待事案に至ったケースはありませんでした。

◎市とのケース会議 4回実施

3) 困難事例への対応

生活困窮、複合的家族の事例については、ふくしあ行政、社協などと連携し対応に努めて参りました。

4) 消費者被害への対応

訪問販売等による消費者被害に対しては、被害の相談はありませんでした。

5) その他

権利擁護団体（弁護士・司法書士）との意見交換会に参加をし、抱えている事例についてのアドバイスを頂き、支援につなげることができました。

<権利擁護相談件数>

単位：件

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
虐待	68	68	55	17	22	31	17
権利	220	181	146	182	137	60	72

消費	2	8	18	0	0	0	5
合計	290	257	219	199	159	91	94

<高齢者見守りネットワーク推進事業に関する協定事業所との連携>

回数： 5回

3. 包括的・継続的ケアマネジメント業務

高齢者が地域で生活できるようケアマネジャーなど様々な職種と連携し、個々の高齢者の状況や変化に応じて包括的継続的にマネジメントを行いました。

- 1) 包括支援センターをより身近な存在に感じてもらうために、職員紹介や業務報告等を掲載した包括だより「ほっこり」を年 2 回発行し民生委員、サービス事業所、居宅介護支援事業所などに配布致しました。リレー方式で社会資源の紹介を掲載するために情報収集を行いネットワークを広げることに努めました。
- 2) 地域の介護支援専門員に対して、電話や来所によりケアプラン作成技法、区分変更等の相談を受け、助言を行ないました。新たな介護支援専門員にはプラン立案の要点などを書面にて伝えました。
- 3) 地域の介護支援専門員が抱える支援困難事例について、各種専門職種の職員や地域の関係者、関係機関と連携し、同行訪問や個別ケース会議を開催し解決に向けて後方支援を行ないました。

4. 介護予防ケアマネジメント

①介護予防給付について

<介護予防支援費請求件数>

単位数：件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
直営	5	5	6	6	7	7	9	10	10	13	13	13	104	8.7
委託	67	68	66	68	68	69	68	66	68	69	68	63	808	67.3
合計	72	73	72	74	75	76	77	76	78	82	81	76	912	76.0

<利用者の状況>

単位数：人

	要支援 1	要支援 2	合計
直営	30	74	104
委託	291	517	808

②第 1 号介護予防支援事業について

<介護予防ケアマネジメント請求件数>

単位数：件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
直営	27	25	25	24	21	23	24	21	20	19	23	24	276	23

委託	41	39	39	39	39	39	40	36	32	32	30	26	432	36
合計	68	64	64	63	60	62	64	57	52	51	53	50	708	59

<利用者の状況>

単位数：人

	事業対象者	要支援1	要支援2	合計
直営	264	0	12	274
委託	90	121	221	432

<介護保険改正に伴う総合事業導入後の直営・委託件数動向>

3月実績比較

*直営目標件数：35件/月

	令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	介護予防 ケアマネ ジメント	件数	合計	介護予防 ケアマネ ジメント	件数	合計	介護予防ケアマネ ジメント	件数	合計
直営	予防給付	6	31	予防給付	5	30	予防給付	13	37
	事業対象者	25		事業対象者	25		事業対象者	24	
委託	予防給付	68	106	予防給付	63	101	予防給付	63	89
	事業対象者	38		事業対象者	38		事業対象者	26	

5. その他

<個別地域ケア会議>

開催数： 31回（開催時期：随時）

内容：会議内容としては、同じケースを数回行うなど、多職種、他機関との連携を図り今後の支援について話し合いを行いました。

<地域ケア会議>

開催数： 8回 開催時期：（5～7月懇話会・3月）

内容：懇話会では、民生委員各々の担当地区社会資源の情報共有を行いました。その他では民生委員が介入した事例の紹介を行いました。懇話会以外での地域ケア会議では、昨年に引き続き、原谷地区福祉協議会役委員と共に地域の情報交換を行い支援間のネットワークの構築を図りました。

地域ケア会議実施後、原谷地区「サングリーン」公会堂を活用した居場所の立ち上げに向け関係機関と話し合いが現在進行形中。

<相談協力員懇話会>

開催数： 7回（開催時期：5～7月）

内 容：ふくしあ団体にも参加していただき、各団体の役割、介護保険、社会資源の情報共有を行いました。また「前民生委員からの申し送り、引継ぎ事項について、最近の担当地区の情報等」をテーマに意見交換を実施しました。

<生活支援体制整備事業に関する取り組み>

◎掛川市地域支え合い推進協議会

開催数： 0 回

◎生活支援コーディネーター（SC）との連携

開催数： 4回

ふくしあ社会福祉協議会の SC と共有会議を開催し、地域課題の共有を図り具体的な活動の洗い出しを行いました。

<ケアマネサロン活動>

開催数： 1 回

内 容： 西部圏域の居宅介護支援事業所と少人数で開催し、「高齢者虐待防止に関する勉強会」を行いました。

<事業所連絡会>

開催数： 4回（全体会2回）

内 容：ZOOMにて市役所からの連絡事項と10月1月には居宅部会が開催され参加を致しました。

<事例検討会>

開催数： 2 回

内 容： 市内居宅介護支援事業所を5グループに分け、少人数で開催しました。

<介護支援専門員連絡協議会>

開催数： 4回

内 容： 地域連携部に所属し、サービス事業所とケアマネとの連携について、情報交換の企画を話し合いました。

<地域密着型サービス事業所の運営推進会議>

開催数： 7 回

内 容：家代の里グループホーム：6回 下垂木の家：1回会議に参加

<健康教育等講話>

開催数： 4回

内 容： ふくしあ入所団体と協力しシニアクラブ、サロン、地区福祉協議会等への講座を行いました。

<地域包括支援センター専門職会議>

開催数： 17回（保健師：6回 社会福祉士：5回 主任ケアマネジャー：6回）

内 容：専門職ごとの情報交換及び課題検討

<申請手続き>

地域包括支援センターは「身近な地域の窓口」として、申込者の意向を踏まえ、介護保険サービス及び福祉サービスが円滑に提供されるために必要な申請が行われるよう援助致しました。緊急通報装置の相談はありましたが、条件を満たすことができず申請には至りませんでした。

(件数)

住宅改修費支給申請書	1	生きがい活動支援申請書関連	15
緊急通報システム関連	0	配食サービス申請書関連	10
紙おむつ申請	1		

<職員研修>

26回 WEB研修が主でしたが、専門職の質の向上のために研修に参加しました。

【認知症総合支援事業】

●総合相談

地域包括支援センターの相談件数 4,827 件のうち 340 件が認知症に関する相談でした。相談者の内訳は本人・家族からの相談が最も多く、医療機関（認知症疾患センター）との連携 6 件でした。

近年、「認知症」の診断を得る場として認知症疾患センターのみならず掛川市内協力医院が開院したことで認知症を疑う相談に対し早期に適切な介護保険サービスに結びつけることができ当事者や家族への負担軽減につながっています。

●ケース会議

◎認知症初期集中支援チーム

実施件数： 0回

内 容： 対象者はいませんでした。

●ネットワーク会議

◎認知症施策推進会議

開催数： 4回（市事業の協力）

内 容： 認知症疾患センター心理士はじめ、県担当職員、2市行政・認知症地域推進員と意見交換を積極的に行いました。

◎キャラバンメイト連絡会（市事業への参加）

開催数： 0回

内 容： 実働はありませんでした。

◎認知症多職種研修会（市事業の協力）

開催数： 1 回

内 容： 市行政、認知症地域推進員と共に掛川市東病院主催の「多職種連携会さてつ」活用した研修企画・資料作り・講師を担いました。

●広報啓発活動

◎「認知症」の支援体制の普及啓発講話

開催数： 11 回

内 容： 懇話会、健康講話時に「認知症ケアパス」の周知に努めました。

◎認知症の理解のための普及啓発「認知症サポーター養成講座」

開催数： 1 回

内 容： 市民、認知症ボランティアと共に西郷「構江地区」住民に向けて、講座を実施しました。

◎認知症カフェ（市事業への協力）

実施件数： 12 回

内 容： 認知症の方やその家族、地域の方など誰でも気軽に集える「居場所」として掛川市社会福祉協議会と連携し事業を展開して参りました。

令和5年度 掛川市ききょう荘事業報告書

総括

掛川市から指定管理を受託し、令和3年度から令和7年度の期間の3年目として事業の運営を継続して参りました。

私たちの生活に大きな影響を与えた新型コロナウイルスは令和5年5月に感染症法上の位置づけが5類に移行されたことで行動制限などが行われなくなりました。掛川市ききょう荘においても徐々にコロナ禍以前の日常を取り戻す流れにありました。面会や外出の制限解除、感染対策や日常業務の見直し等、日々検討を重ねて参りました。そのような中、コロナ禍で下火となっていたインフルエンザが2020年以来、約3年ぶりに大流行となりましたが、利用者と職員が一丸となって手洗いやマスク着用など感染予防対策に取り組み、年度を通じて「利用者感染症罹患ゼロ」を達成しました。

一方、ウクライナ進行の長期化や、中東情勢の緊迫化によるエネルギーコストの上昇など、物価高騰の影響を受け厳しい運営となりました。そして追い打ちをかけたのが、慢性的な人手不足でした。

利用者処遇においては、令和4年度に在籍者数が30名まで減少しましたが、令和5年度は入所者3名、退所者3名ということで、さらに利用者が減少することはありませんでした。入所を検討する際は、生活管理指導短期宿泊事業を活用し、利用者の方には施設での生活を体験することで、入所後のトラブル防止を図りました。特に精神疾患をお持ちの方には本人の意向を踏まえながら慎重に見極め入所の可否を判断いたしました。養護老人ホームとして、心身ともに安心・安全な生活を送るためのセーフティネットの役割を意識し、複合的な生活問題を抱える高齢者に対する生活拠点の一つとなるように努めました。

地域福祉向上の取組みに関しては、掛川市社会福祉協議の事業に参画し、高齢者のみならず心身に複合的な生活課題を抱える地域住民の自立生活を支えるため、地域におけるネットワーク作りや新たに移送支援に取り組みました。

建物修繕においては第三期避難経路舗装工事並びに居室コールの更新を行い施設の安全性・快適性を高めました。その他、掛川市の計画に基づき空調設備改修を行うなど施設設備の維持管理に努めて参りました。燃料費高騰による施設の運営費負担を軽減するために、省エネを職員共通の課題と捉え、コスト意識や業務改善意識など、職員の意識改革に取り組みました。

事業報告

1. 相談援助

①入退所支援

- ・入所相談においては“聴く姿勢”を意識し、随時関係機関との連絡や連携を図って参

りました。在宅からの虐待案件においても関係機関と協力し、生活管理指導短期宿泊事業にて緊急対応するケースもありました。

- ・利用者、家族、関係者の方々が、ききょう荘に興味を持っていただくよう施設の情報を効果的に伝えるためパンフレットを更新しました。また、年間を通し施設の日常の様子をブログで発信しました。

②個別処遇におけるマネジメントの確立

- ・利用者一人一人へ必要な支援を提案する為に外部支援者の協力を得る働きかけや、ケアマネジャーやサービス事業所との細やかな情報交換を行って参りました。また外出等が緩和されたことで徐々に日常への充実感を取り戻し、生きがいや介護予防に繋げることができました。

③ネットワーク構築

- ・外部の支援者との意見交換や、事業所・中部地区公立養護老人ホーム施設職員連絡協議会の研修、養護連絡会・ふれあい広場などに参加し、交流を深めました。また地域の社会資源として施設の行事にボランティアの方々を招いたり、実習生を受け入れたりと様々な機会を通じて関係機関とコミュニケーションを図りました。

2. 生活支援

①入所生活の充実

- ・サービスの質を向上させるため、利用者に対しアンケート調査（1回）を行いました。
- ・カラオケ以外のレクリエーションとしてプロジェクターとタブレット(YouTube)を使用した上映会を開催しました。

②家族との関わり

- ・保証人との関係構築においては、親族の抱える悩みや今後の不安、そして本人との関係性について傾聴しました。そして保証人としての役割を担ってくれていることに感謝することで、施設と保証人とのより良い関係性を築くよう努めて参りました。
- ・自立維持が難しくなった利用者においては、保証人に対し介護保険の申請や状態に合った他施設への移動を提案し、利用者の心身の負担軽減に努めました。
- ・緊急入院や生活上のトラブルがあった際には家族保証人と相談し、協力を得ながら対応いたしました。

③地域との連携

- ・地域との交流を深めるために11月には水垂地区老人クラブと合同グラウンドゴルフ大

会を開催いたしました。

- ・掛川市社会福祉協議会と協働し、低所得者等生活に困窮している世帯に生活用品や食料を提供しつつ、専門職に相談する「福祉なんでも相談フードパントリー事業」及び、ひきこもり当事者の就労体験支援「中間就労プロジェクト」に取り組みました。

3. 健康管理

①フレイル対策

- ・「鍛えよう心と身体」を掛川市ききょう荘の年間目標としました。初めての試みとしてエバーグリーン掛川から作業療法士・理学療法士を派遣して頂き、7月と12月に運動教室を開催いたしました。
- ・ペダルエクササイザー（足こぎペダル）やハンドグリップを購入し、利用者自ら自由に運動できる環境を整えました。

②口腔機能の維持向上

- ・口腔体操は日課として毎食前に継続して行いました。口腔機能の維持はオーラルフレイル予防にもなる為、葛ヶ丘歯科による歯科検診を実施し、検診結果に問題があった利用者は、指導・治療につなげて参りました。

③認知機能の低下予防

- ・健康教室では認知症予防の体操を行いました。継続的な取り組みになるよう棒体操の時間に認知症予防体操を行いました。

④感染症対策

- ・感染対策研修並びに感染対応訓練を実施し、感染対策の強化を図りました。令和4年度のクラスター経験から、“異変者の早期対応”を重視しながらも、段階的にコロナ禍以前の日常を取り戻す取り組みを行いました。
- ・「医療サイン～訴えを受け止める支援～」というテーマで、年間を通じて利用者の健康管理に関する内部研修を実施し、職員のスキルアップに努めました。
- ・5類移行後も新型コロナウイルス感染症に対する取り組みとして、訪問者の体温チェック・手指の消毒、施設内の定期的な除菌、マスク着用の徹底等を行い、利用者及び職員の安全確保に取り組みました。
- ・令和5年9月 中部地区公立養護老人ホーム施設職員連絡協議会「看護師研修会」テーマ『福祉施設における感染対策～看護職員に求められる役割～』（当施設主催）
- ・令和6年2月 感染防止対策のための施設訪問指導（静岡県病院協会）

4. 食生活・栄養管理

①フレイル予防・改善

- ・給食委託会社からの提案により、記憶力の維持が期待できる機能性の高い食品を提供することで、フレイル予防に食事面からアプローチすることができました。また健康栄養教室ではフレイル予防の一環として「認知症予防」をテーマに、健康寿命を延ばすことの大切さを伝える講話を行いました。

②利用者の多様性に対応した食事提供

- ・嚥下機能が低下してきた利用者に対しゼリー食を提供しました。対象利用者は安全な食事形態で食事摂取することができ、体調回復に繋がっております。利用者の中には家族から栄養状態等の相談を受けた事例もあり、本人・家族の意向を尊重したうえで補助食品の購入をアドバイスさせていただきました。
- ・令和6年1月には長寿推進課職員に検食をお願いし、ご意見を頂いております。その際、食事提供に関する内容等も説明いたしております。
- ・食事環境の改善として、食べやすく使いやすい食器を導入いたしました。

③こだわりの食事・楽しめる食事

- ・食欲増進に繋がるように食事から季節を感じていただくように心がけ、1年を通じて行事食を提供して参りました。また外食行事が再開され、開放的な気分で食事を楽しんで頂くことができました。

④安全衛生

- ・11月夕食時、検食者が違和感を持ち用意されていた食事の提供を取り止め、急遽非常食を提供しましたが、結果的に問題はありませんでした。また同月、保健所衛生機動班の定期立ち入り調査があり、安全に食事を提供するための指導を頂きました。その他にも委託会社職員参加による防災訓練を実施するなど、防災意識の向上に取り組みました。

5. 災害対策

①各災害に備えた防災訓練の実施等

- ・年間計画に沿って月次訓練を実施しました。想定内容を毎月変更しながら、災害状況に対して臨機応変な判断ができるよう訓練を実施して参りました。総合防災訓練につきましても日中と夜間を想定した訓練を行いました。

②災害等に備えた職員研修の実施

- ・スプリンクラーの配管劣化に伴い改修工事が行われたことを契機として、スプリンクラー設備の機能と役割について改めて防災教育を行いました。また月次の消防用設備等自主点検では正規職員が順に点検を行うことで、防災の主体を我が事として参画する意識づけに努めました。
- ・掛川中央消防署で開催されている普通救命講習会に全職員（17名）受講し、応急手当に関する意識を高めました。
- ・職員の防犯意識を高めることを目的とし当施設では初めてとなる不審者対応訓練を実施しました。

③食材、備品の災害備蓄

- ・備蓄食料の入れ替えは計画通りに実施し、消費期限が迫っている備蓄品は掛川市社会福祉協議会のフードバンクへ寄付を行いました。

6. 設備・環境整備

①省エネの取組み

- ・近年の物価高騰により電気やガスの使用方法については利用者の生活環境に影響が出ないように調整を行い節約して参りました。特に温水暖房に使用するガスを節約するため、余熱を活用するなど事務所で一元管理を行いました。

②修繕と設備更新

- | | |
|--------------------|---------------------|
| ・第三期避難経路舗装工事（6・7月） | ・LPガスメンテナンス工事（7月） |
| ・厨房横天井蛍光灯設置工事（7月） | ・スプリンクラー配管修繕工事（10月） |
| ・防災スクリーン修繕工事（1月） | ・外部汚水桝詰り簡易補修工事（3月） |
| ・居室コール更新工事（3月） | ・グラウンド砂入れ（3月） |

③掛川市年次計画による施設改善

- ・ききょう荘空調設備改修工事（8・9月）

7. 統計資料等

①【年間利用者（在籍者）数】

数/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
月初利用者数	30	28	28	28	29	29	29	29	29	29	28	29	28.8
月初障害者加算人数	22	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20.2

※3月4日、利用者1名入所

②【年間入退所者数】

(令和6年3月31日現在)

区分	入所	退所	現員
男性	2名	0名	2名
女性	1名	3名	4名
計	3名	3名	6名

③【年齢別構成】

(令和6年3月31日現在)

区分	64歳以下	65～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	計
男性	0名	3名	16名	4名	0名	23名
女性	0名	2名	2名	3名	0名	7名
計	0名	5名	18名	7名	0名	30名

男性平均年齢…75.4歳 女性平均年齢…77.2歳 全体平均年齢…75.9歳

④【在所期間別】

(令和6年3月31日現在)

区分	1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上	計
男性	2名	3名	6名	9名	3名	23名
女性	1名	2名	2名	1名	1名	7名
計	3名	5名	8名	10名	4名	30名

男性平均期間…5.9年 女性平均期間…5.1年 全体平均期間…5.7年

⑤【要介護認定状況】

(令和6年3月31日現在)

区分	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	計
男性	1人	0人	1人	2人	2人	1人	7人
女性	0人	2人	0人	0人	0人	0人	2人
計	1人	2人	1人	2人	2人	1人	9人

⑥【日常生活動作等の状況】 ※入院者1名除く (令和6年3月31日現在)

項目	介助不要	一部介助	全介助	計
食 事	26名	3名	0名	29名
排 泄	25名	4名	0名	29名
入 浴	20名	9名	0名	29名
体 位	29名	0名	0名	29名
着 脱	23名	6名	0名	29名
移 動	26名	3名	1名	29名

⑦【ボランティア活動の状況】

区分/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
保/小中高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般男子	0	0	0	0	0	4	0	0	1	2	0	0	7人
一般女子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4人
人数計	0	0	0	0	0	4	0	0	1	6	0	0	11人
件数	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	3件

⑧【面会者調べ】 (面会日数…同一日は重複して計上しない)

数/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
面会日数(日)	0	0	0	20	8	8	12	15	21	16	9	14	123
面会者数(名)	0	0	0	25	15	9	18	20	32	24	12	21	176

⑨【外出・外泊調べ】 (受診、デイサービス、事務手続き、施設行事を除く)

数/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
外出者数	13	14	24	25	17	10	15	23	19	18	15	14	207
外泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泊日数(日)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑩【事故等発生状況】 市報告…医療機関へ受診した事故(再掲)

数/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件 数	0	3	2	0	0	2	0	3	0	3	2	3	18
市報告	0	2	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	6

⑪【苦情相談】

数/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	4

8. 医療関係

【嘱託医】 岡田医院 岡田裕美子先生

【診察日】 毎月2回 木曜日

①入院状況

中東遠総合医療センター	3名	川口会病院	4名
磐田病院	0名	小笠病院	0名

②外来受診状況

《中東遠総合医療センター》

眼科	5名	整形外科	名	泌尿器科	0名
外科	12名	呼吸器科	3名	消化器内科	16名
循環器科	0名	耳鼻科	2名	認知症	1名
脳神経内科	5名	脳外科	1名	皮膚科	2名
CT・MRI	6名	検査	9名	歯科	1名

《その他の医療機関》

岡田医院	38名	増田内科循環器科	14名	葛ヶ丘歯科医院	41名
とやま眼科	16名	掛川海谷眼科	16名	あつみクリニック	20名
高松クリニック	8名	川口会病院	60名	小笠病院	24名
佐野医院	3名	うめず脳神経外科	1名	おの耳鼻科	4名
くにお皮膚科	4名	聖隷浜松病院	1名		
訪問看護(川口会)	0名	訪問看護(小笠病院)	9名		

③定期検診

- ・ 9月…聴打診・血圧測定・尿検査・血液検査・身長・体重
- ・ 3月…聴打診・血圧測定・尿検査・血液検査・心電図・胸部レントゲン・身長・体重

④インフルエンザ予防接種

- ・ 10月12日、10月19日

⑤コロナワクチン接種

・7回目…10月26日、11月2日

9. 事業所委員会活動

名 称	開催回数	研修・訓練
事故防止委員会	6回	2回
身体拘束適正化検討委員会	6回	2回
虐待防止検討委員会	6回	2回
感染対策委員会	10回	4回
サービス向上委員会	6回	0回

10. 出張関係

名 称	回数	合計
研修出張	32回	51回
業務出張	19回	

11. 防災訓練実施状況

月日	種 類	訓 練 内 容	参加者
4月24日	避難誘導訓練 防災教育	・火災想定 ・消防用設備等自主点検チェック表	職員 7名 利用者 24名
5月2日	避難誘導訓練	・地震想定	職員 8名 利用者 25名
6月26日	総合防災訓練 (日中想定)	・初期消火、避難誘導、情報伝達	職員 6名 宿直 2名 利用者 23名
7月24日	避難誘導訓練 防災教育	・土砂想定訓練 ・スプリンクラーの仕組みについて	職員 8名 利用者 24名
8月28日	避難誘導訓練	・地震想定	職員 8名 利用者 25名

9月25日	避難誘導訓練	・土砂災害想定	職員 8名 利用者 23名
11月7日	避難誘導訓練	・火災想定 ※10月開催予定分	職員 6名 厨房職員 1名 利用者 23名
11月27日	総合防災訓練 (夜間想定) 防災教育	・初期消火、避難誘導、情報伝達 ・水消火器対応訓練	職員9名 夜専2名 宿直2名 消防1名 利用者 24名
12月25日	避難誘導訓練	・地震想定	職員 9名 利用者 24名
1月2日	避難誘導訓練 (夜間想定) 防災教育	・火災想定訓練 ・スプリンクラー仕組みについて	職員 9名 利用者 22名
2月26日	避難誘導訓練	・土砂災害想定	職員 8名 利用者 23名
3月25日	避難誘導訓練	・地震想定	職員 10名 利用者 25名